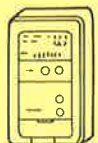
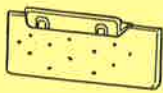


据付け工事

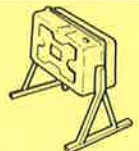
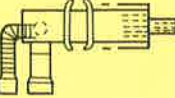
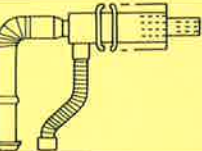
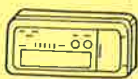
据付け場所は、水道配管工事・電気配線工事などの付帯工事が容易にできる場所にしてください。又、火災予防上所定の距離がじゅうぶんに取れるスペースが必要です。

1. 開こん

●付属品(本体に同こんしています)

部品名(数量)	メインリモコン(1個)	壁掛金具A(1個)	壁掛金具B(1個)	フレアナット(1個)	ホースニップルセット(1個)	メインリモコン工事用ビスセット	壁掛金具工事用ビスセット	スポイト(1個)
外 観					(OW-3MBF K専用) OW-3MBFには同梱していません  (ホースバンド2個付)			

●別販品(事業部取扱い品)

品 番	GT-903	OB-PC2K20	OB-KT2FF	OB-KT1FF-1	OB-PC3MR
部 品 名	油 タ ン ク	リモコンケーブル	給排気筒セット	給排気筒セット	ふろリモコン
取扱い事業部	石油機器事業部	暖房システム事業部	暖房システム事業部	暖房システム事業部	暖房システム事業部
外 観					
数 量	1	1	1	1	1
備 考	タンク容量90ℓ 他に460ℓあり	2芯コード(20m) 他に5、10、15mあり	(後面直出し用)	(左右壁直出し用・延長用)	

●パナSPセンター取扱い品

品 番	部 品 名	数 量	備 考
AD-3620STT	逆止弁付止水弁	1	20mm。他に13mmあり
AD-3224GBR	減 圧 弁	1	設定圧力 2.0kgf/cm ²
AD-3020-25F	フレキシブルチューブ	2	25cm(他に10、15、20cmがあります)
AD-H580	防 熱 板	1	
AD-G100P6	壁掛金具補強板	1	

延長配管は給排気筒セット工事説明書より最適な延長用部材を選定してください。

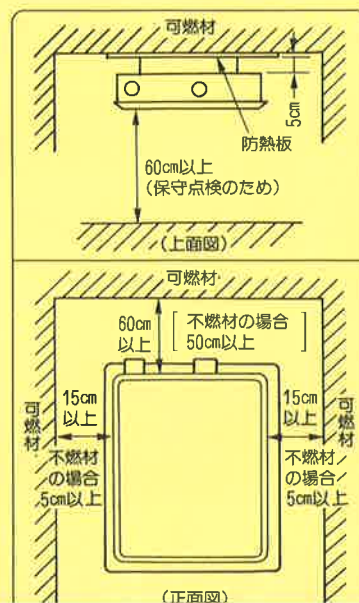
2. 設置及び据付け

●据付け場所の選定

- ①本機は強制給排気形の屋内設置専用です。雨水のかかる屋外には設置しないでください。
- ②配管からの放熱口を少なくするため、使用頻度の多い台所又は浴室に近い場所。
- ③排気工事が基準通りに行える場所。
- ④油タンクが安全に設置できる場所。
- ⑤本体重量に十分耐えることのできる丈夫な壁。
- ⑥本体前面にメンテナンスができるスペース(60cm)がとれる場所。
- ⑦隣近所への運転騒音が配慮できる場所。
- ⑧湿気の多い場所や、ガス等揮発性の物が近くにない場所。

●火災予防上の必要寸法

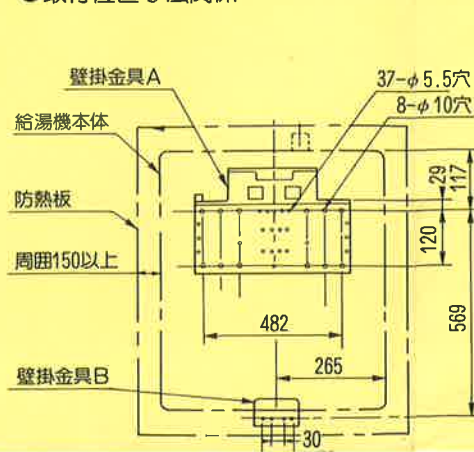
- ・取付壁面は不燃材仕上が必要です。
- ・可燃材壁の場合は防熱板を取付けた上に本体を設置してください。



●本体の取付け方法

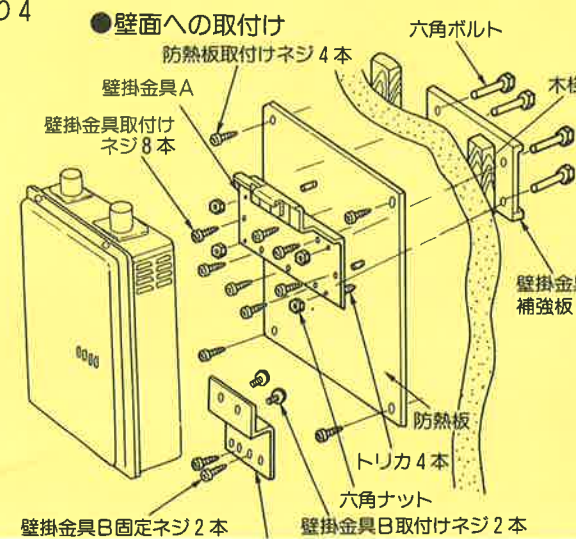
- 給湯機本体の重量(満水時)は約31kgになります。取付けに際しては壁面の強度が必要です。壁面が石膏ボード等の仕上がりで強度がない場合は壁掛金具の固定を下記のいずれかの方法で取付けてください。
- ①8-φ10の穴の中から木棧部に打込みができる位置に付属のトリカを打込み(下穴φ6)、付属のビス4本で取付けてください。
- ②37-φ5.5の穴の中から木棧部に付属の残り4本のビスで取付けてください。

●取付位置寸法関係



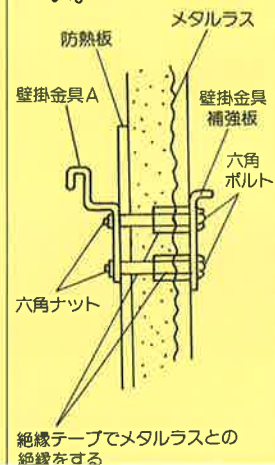
- ②パナSPセンター扱いの壁掛金具補強板(AD-G100P6)を使用して補強する。(482×120ピッチ4カ所で固定する)

●壁面への取付け



注意

- ・メタルラス張りなどの壁に壁掛金具補強板の六角ボルトを貫通させる場合などは、器具とメタルラスとは電氣的に接触しないよう下図のような壁工事をしてください。



●油タンクの据付け場

- ①風通しのよいところ
- ②落雷の影響のないところ

送油配管

- 配管材料はφ8なましを使用してください。
- 配管の途中に空気がたまりないようにする。
- 銅管のフレア出しは必ずヤ工具を用いて行ってください。
- 配管接続部の油もれを必ず検してください。
- 配管長は30m以内にしてください。

- ・本体下面とオイルタンクの距離が1.5m以上の場合は別販の自動灯油供給装置(K-B80K)を使用して灯油供給装置をオイルとして寸法を確保してください。

OW-3MBF

OW-3MBF Kは
屋内配管に限りゴム送油
用できます。付属のホ
ースニップルセットで接続して

※OW-3MBFは、工
管を使用できません

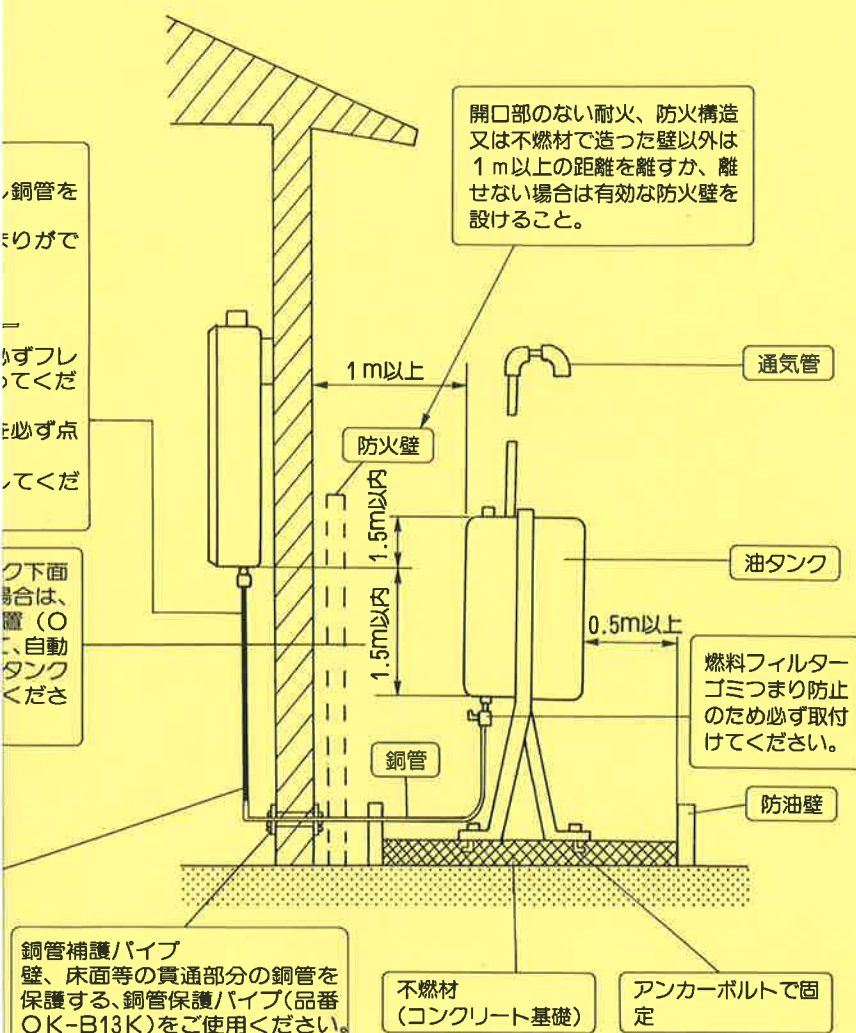
配管工事

各地区の火災予防条例に適合した設置が必要です。

所は、下記の点に注意して選定してください。

ろで直射日光などの影響が少ない位置。

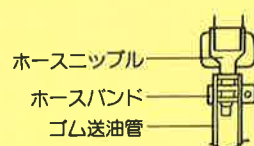
位置。



の屋内配管

油管が使用
スニツ
ください。

ム送油



注・ゴム送油管は屋外には絶対使用しないでください。
・ゴム送油管は日本燃焼器具検査協会指導によります。
石油燃焼器具送油管(JIS-S3022)をご使用ください。

3

水道配管工事

配管工事は水道局の指定工事店に依頼し、所轄の水道局の規定に従ってください。

- 配管接続口は、給水・給湯とも20A(R $\frac{3}{4}$)となっています。
- この器具を正しくご使用いただくには、蛇口には必ず混合水栓を使用してください。
- 本体底面にある「給水口」、「給湯口」を確認の上、配管接続してください。(接続口を間違えると機器は作動しません。)
- 本体と接続する際は、給水・給湯管接続部のスパナかけ部にスパナをかけ本体に無理な力がかからないように注意してください。
- 給水、給湯配管は適切な凍結防止処置をしてください。

給湯配管

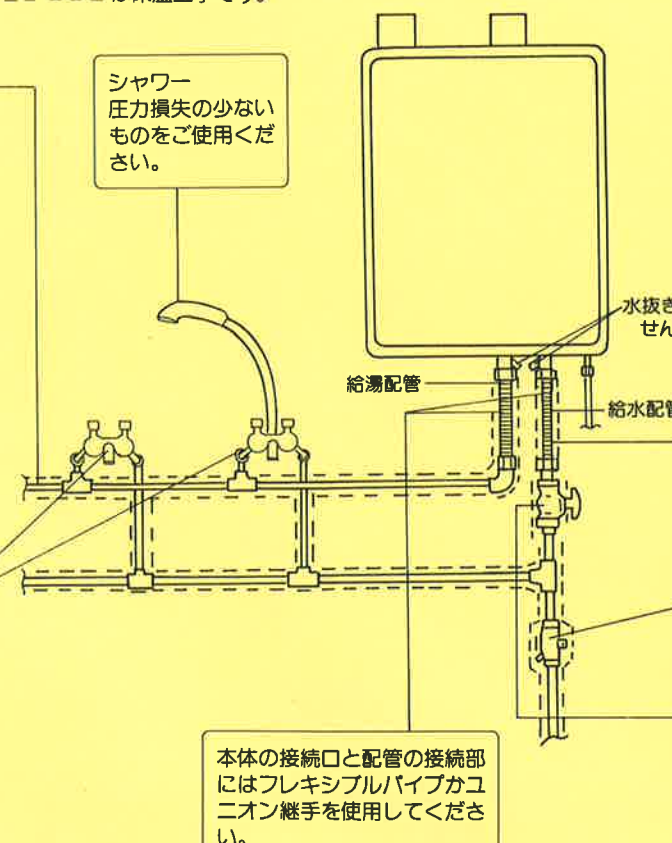
配管材料

- ・耐久性・衛生上の点から銅管を使用してください。鉛管配管、塩ビ配管の使用は絶対さけてください。使用している間に破裂する危険があります。
- ・給湯配管長はできるだけ短くし、複雑な配管は避けてください。
- ・配管途中にエア溜りのできるような配管は避けてください。
- ・給湯配管は水抜きが容易にできるようにしてください。

- ・混合水栓は圧力損失の少ないもの、逆止機能付をご使用ください。

二二二二は保温工事です。

シャワー
圧力損失の少ない
ものをご使用くだ
さい。



給水配管

給水圧力

- ・この器具は点火するために、(器具の作動水圧)+(配管の損失水頭)(通水時)以上の給水圧力が必要ですので水道の給水圧が十分あることを確認してください。
- ・お湯を快適に使用するために、水道の給水圧のめやす。

通常給湯 (シャワーを除く)	約1.2kgf/cm ²
シャワー	約1.7kgf/cm ²
2階	上記給水圧に 約0.3kgf/cm ² をプラス

- ・特に高水圧地域(3kgf/cm²以上)では減圧弁(2kgf/cm²用)を必ず取付けてください。

逆止弁付止水栓(AD-3620STT)

- ・逆止弁が必要な地区は給水接続口の近くに逆止弁付止水栓を必ず取付けてください。

配管の凍結防止

- 配管は必ず保温材(厚さ25mm以上)で被覆してください。
- 冷え込みの厳しい地域では、さらにナショナル水道凍結防止器(品番DR2232、30W以上)を配管およびバルブ類に巻いて、十分な保温を行ってください。
- 水抜きせんは、保温材で包み込まないでください。
- 配管内の水抜きが容易にできるように措置をしておいてください。

凍結防止の配慮

- 凍結防止工事を完全に行なっても需要家様に行なってもらわなければ凍結してしまうことがあります。凍結防止使用法を実行してもらうようご指導してください。

凍結防止使用方法

この器具は凍結防止ヒータが内蔵されていますが、冷え込みが厳しいときは、「方法1」、「方法2」で凍結防止を行なってください。

- 凍結防止による自動保温(気温が0℃～-5℃の場合)

- ・外気温が0℃近くになるとヒータのスイッチが入り保温します。
- ・ブレーカや電源プラグは絶対切らないこと。

「方法1」凍結防止運転による方法

- ・常時給湯機周辺が0℃以下になる場合は、運転スイッチ・節約スイッチを「入」にする。

「方法2」水抜きによる方法

- ①運転スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜く。
- ②給水元せんを閉め、給湯せんを開き、給湯側と給水側の水抜きせんを開け水を抜く。

4

給排気筒工事

給排気筒工事は燃焼を正しく行うためと安全性の点から極めて大切な工事です。万一あやまった工事をするると大変危険な状態になりますので正しく工事してください。

- 給排気筒は正しい性能、安全確保をするために必ず専用の給排気筒セット(OB-KT1FF-1・OB-KT2FF・別販)及び延長部材(別販)を使用し、標準品以外の給排気筒は取付けないでください。
- 各地の火災予防条例では排気筒の設置基準を定めておりますので、必ず厳守して正しく工事してください。

施工にあたっては、専用の給排気筒セットに付属の工事説明書に従って行なってください。

給排気筒の施工

- 給排気筒トップの取出方向により、最適給排気筒セット(OB-KT1FF-1、OB-KT2FF)があります。下記施工例を参考に選んで施工してください。

OB-KT1FF-1(左右壁、直出し、延長用)

〈右壁・直出し〉

〈右壁・延長〉

〈左壁・直出し〉

〈左壁・延長〉

OB-KT2FF

(後壁、直出し用)

5

電気配線工事

適切な位置に電源コンセントがない場合は、会社の指定工事店に依頼し、容量が1

- 電源は単相交流100Vを使用してください。電源電圧が高すぎたり、低すぎたりすると誤動作の原因となります。
- 給湯機の専用コンセントを必ず設けてください。

1. 電源工事

- 容量が15A以上の専用配線を必ず設けてください。
- 専用のアース付コンセントを壁面の適切な位置に取付けてください。

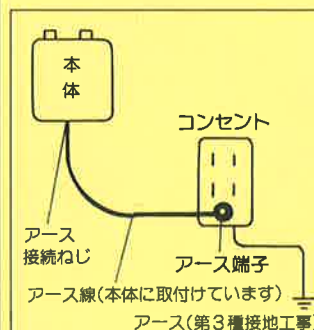
アース付コンセント

松下電工(株)
●WKS 214
●WS 3911
●WK 7251

2. 接地(アース)工事

- 万一の感電防止のため必ずアースしてください。
- 電気設備基準に基づき必ず電気工事士による第3種接地工事を行なってください。

(法令で規定されています。)



〔ご注意〕
ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路、又は漏電しゃ断器を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。
(法令などで禁止されています。)

3. メインリモコン工事

取付場所選定

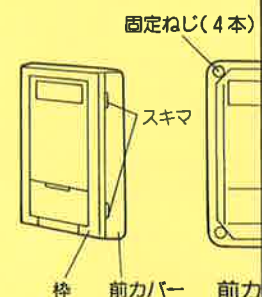
- メインリモコンの取付場所は需要家様とご相談の上、下記の点に注意して選定してください。
- ①防水構造でないで必ず屋内に取り付ける。
- ②運転スイッチの操作が容易で、表示ランプが良く見える場所。
- ③配線工事が容易で、配線の長さが20m以内になる場所。
- ④高温(50℃以上)になる場所、湿気の多い場所には取り付けられない。
- ⑤幼児の手の届かない場所。

室内
リモコンケーブル(20m以内)
メインリモコン

湿気
高温

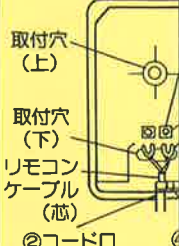
リモコンの取付け

- リモコンの枠をはずす
(右図のように枠と前カバーの間のスキマにドライバーなどを差し込んで、かるく手前にひっぱる。)
- 前カバーとリモコン本体を固定しているねじ4本を外す。
(前カバーをはずすとプリント基板が露出しますが、電子部品には絶対に手や工具を触れないでください。(故障の原因となります。))



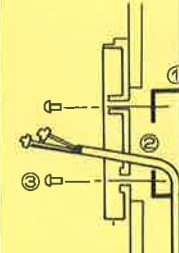
壁面に取付ける場合

- ①リモコン本体を操作しやすい位置に付属の木ねじ2本で固定する。
- ②前カバー下面のコード口の薄膜をカッター等でコードが通るように切取る。
- ③ケーブルの端子をプリント基板の端子台に付属のねじで固定する。
- ④コード止めてケーブルの外皮部分を固定する。
- ⑤前カバーを4本のねじで取付ける。



壁中にコードを通す場合

- ①壁面に1コ用スイッチボックス(カバーなし)を設置する。
- ②リモコン本体の中央コード口の薄膜を切り取りリモコンケーブルを通す。
- ③リモコン本体をスイッチボックスに付属のなべ小ねじ2本で固定する。
- ④ケーブルの端子をプリント基板の端子台に付属のねじで固定する。
- ⑤前カバーをかぶせて、4本のねじを締付け、リモコンの枠を前カバーにはめ込む。

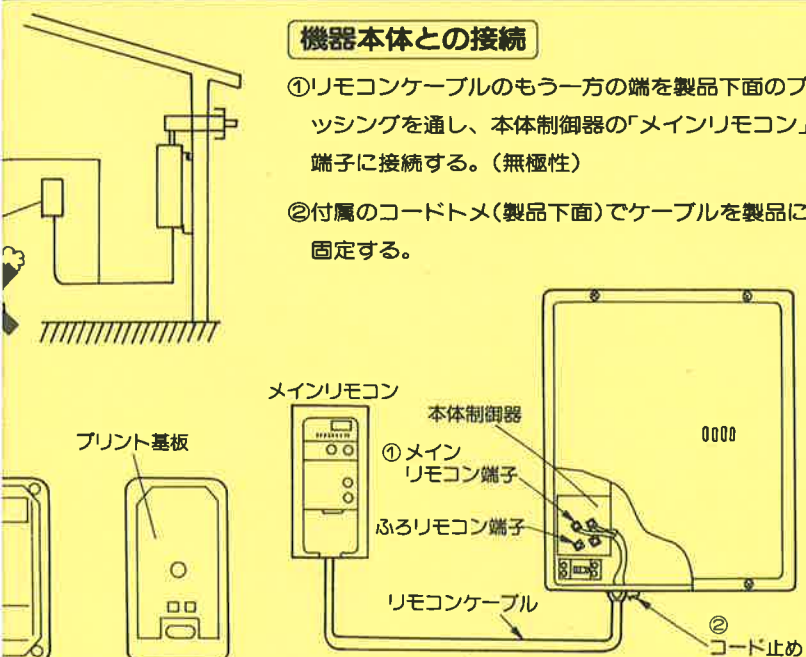


場合あるいは容量が少ない場合には、電気配線を電力
5A以上の専用配線を必ず設けてください。

になりますので90~110Vを確保してください。

機器本体との接続

- ①リモコンケーブルのもう一方の端を製品下面のブッシングを通し、本体制御器の「メインリモコン」端子に接続する。(無極性)
- ②付属のコード止め(製品下面)でケーブルを製品に固定する。

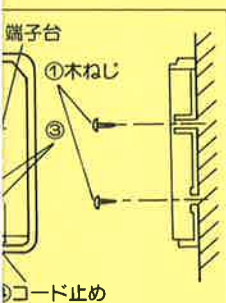


注意

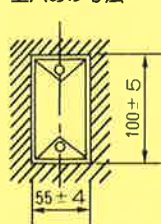
- リモコンケーブルは電源コードと接触しないように配線してください。誤操作の原因になります。
- 各リモコンケーブルの余り分は、給湯機本体の内部には収納しないでください。誤操作の原因となります。(適正な長さに切断して配線してください)

4. ふろリモコン工事

- 別販のふろリモコン(OB-PC3MR)をお買い求めのうえ、ふろリモコンに同梱の工事説明書に従って正しく行なってください。
- ふろリモコンの枠のはずし方はメインリモコンと同じです。



壁穴あけ寸法



6 試運転

- 据付けが完了したのち、「お引渡確認書・工事試運転チェックリスト」の項目に従って必ず、チェックと試運転を行なってください。
- 需要家様への引渡しに際して、同梱してある「取扱説明書・注意書」をお渡しのうえ、「使用方法・日常の手入れ」について詳しく説明してください。
- 特に「油タンク内の灯油を切らさないようにいただくこと」と「凍結防止のための使用方法」については念を押して需要家様をお願いをしてください。
- 長期にわたって機器を最良の状態を維持するため、需要家様に定期点検契約の概要の説明と契約のおすすめを行なってください。

運転準備

- ①給油
油タンクに灯油(JIS 1号灯油)を入れる。
- ②油漏れの確認
配管および本体から油漏れがないか確かめる。
- ③給水および水漏れの確認
配管および本体から水漏れがないか確かめる。
- ④電源プラグの確認
専用コンセントに電源プラグをさし込む。

運 転

- メインリモコンの運転スイッチを「入」にして、予熱を行なってください。
※予熱開始と同時にくみ上げポンプが運転し、油タンクから油を吸い上げます。
この時くみ上げポンプに油がくるまでの間、空打ちの為、大きい音が発生することがありますが、すぐにおさまりますので、そのままお待ちください。
又、油タンクから給湯機本体までに、80秒以内に油が吸い上げらなかった場合、メインリモコンの異常モニターに「E1」表示(リセット落ち)することがありますが、その場合メインリモコンの運転スイッチを1度「切」にした後、再度「入」にしてください。
- 予熱が完了してから、給湯せんを開けば燃焼を開始しお湯が得られます。運転状態で次の異常がなく、正常であることを確かめてください。
 - ①送風モーター・ロータモーターの回転異常音、パルスポンプの異常音および振動音。
 - ②着火異常音(着火おくれなどによるもの)。
 - ③排気筒からのスス発生、振動燃焼などによる燃焼異常音。
 - ④炎検出器の異常などによる断続燃焼。
 - ⑤試運転時、給排気筒トップより臭いや白煙が出ることがありますが、運転を続けると消えます。故障・異常ではありません。

【ご注意】

- 正常に運転しない時は再度「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を確認して運転スイッチを「切」「入」してください。